

(1) 都内の結核患者発生状況と結核病床等の現状

都内の結核患者発生状況

2021年の新登録結核患者数は、2020年と比べて160人減少した。
 2020年 患者数 1,589人 塗抹陽性者数 597人
 2021年 患者数 1,429人 塗抹陽性者数 545人
 新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2020年2月以降、以下の状況が生じている。

稼働病床数の減少

2022年3月現在の結核病床数は378床。このうち、4病院の結核病床（109床）はコロナ病床へ転用され稼働病床は269床。その内、感染症法第37条第1項に基づく入院が可能な病床は、197床となっている。
 近隣県においても、結核病床が不足しており、同様の状況である。なお、低まん延化していく中、結核病床の増床は見込めない。
 結核病床空床数の推移より、空床が10床を切ると、患者の性別や病状、病院の人員体制により入院調整が困難な事例が生じやすい。

合併症や妊婦対応

精神疾患を有する結核患者、人工透析や結核以外の手術やカテーテル治療等の専門的医療が必要な結核患者等の入院調整が困難な状況が継続している。

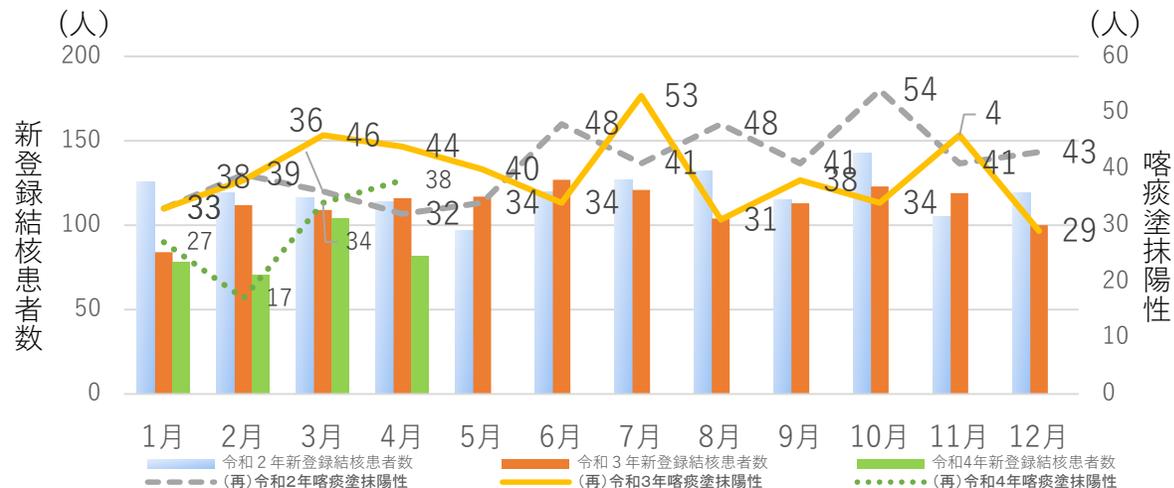
(2) 結核病床を持つ医療機関の現状と課題

- ・入院時に新型コロナウイルス感染症のスクリーニングを実施するため、最初の数日間是个室入院となり、稼働病床数が限られる。(医療機関から聴取)
- ・副作用や退院後の再排菌など再入院の必要が生じる患者も少なくない。
- ・塗抹陰性となったADLの低い高齢者が転院できず、入院が長期化している。
- ・合併症等、専門的医療が必要な結核患者の対応可能な医療機関が限られる。
- ・近隣県からも入院勧告対象患者が多数入院。

(3) 対応策

- ・結核病床を有する医療機関の機能を把握し、病院機能に応じた結核医療の推進
- ・一般医療機関と結核病床を有する医療機関とのネットワーク構築の検討
- ・結核患者収容モデル病室の活用(合併症の受入れ促進)

【図1】 都内の月別結核患者発生状況の推移



※患者数、塗抹陽性患者数は、結核研究所疫学情報センター月報から集計したもので実数とは異なる。

【図2】 病床数・東京都り患率の推移

